

関内駅周辺地区

AREA

CONCEPT

BOOK (案)

市民意見募集用

関内駅周辺地区

エリアコンセプトブック

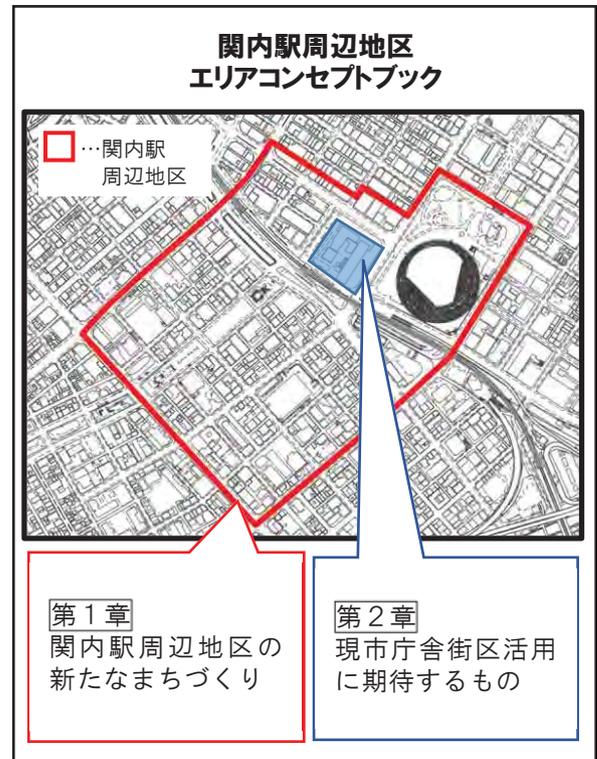
関内駅周辺地区エリアコンセプトブック（案）の市民意見募集について

関内駅周辺地区エリアコンセプトブックとは

関内駅周辺地区は、横浜の顔として長年にわたり市民に親しまれてきた地区です。この地区の市庁舎移転後の新たなまちづくりの方向性と現市庁舎街区における開発計画は、今後の関内・関外地区をはじめとした都心臨海部全体にとって非常に重要なものとなります。

そこで、現市庁舎街区活用の公募においては、募集要項と連動して新たなまちづくりの方向性等を示すものとして、「**関内駅周辺地区エリアコンセプトブック**」（以下、「エリアコンセプトブック」という）を策定します。

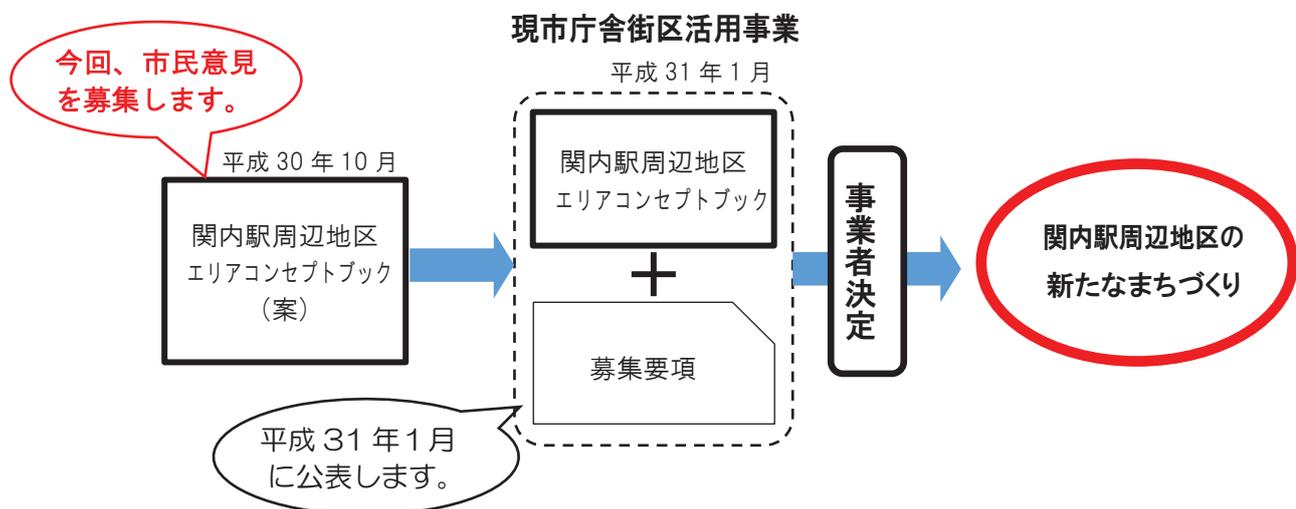
エリアコンセプトブックでは、第1章において、「関内駅周辺地区の新たなまちづくり」を示し、第2章において、現市庁舎街区の公募の提案者に向けたメッセージとして、募集要項と連動した複数の望ましい活用イメージ例など「現市庁舎街区活用に期待するもの」を示します。



市民意見募集について

このたび、第1章「関内駅周辺地区の新たなまちづくり」と第2章「現市庁舎街区活用に期待するもの（骨子）」について、市民の皆様のご意見を募集します。

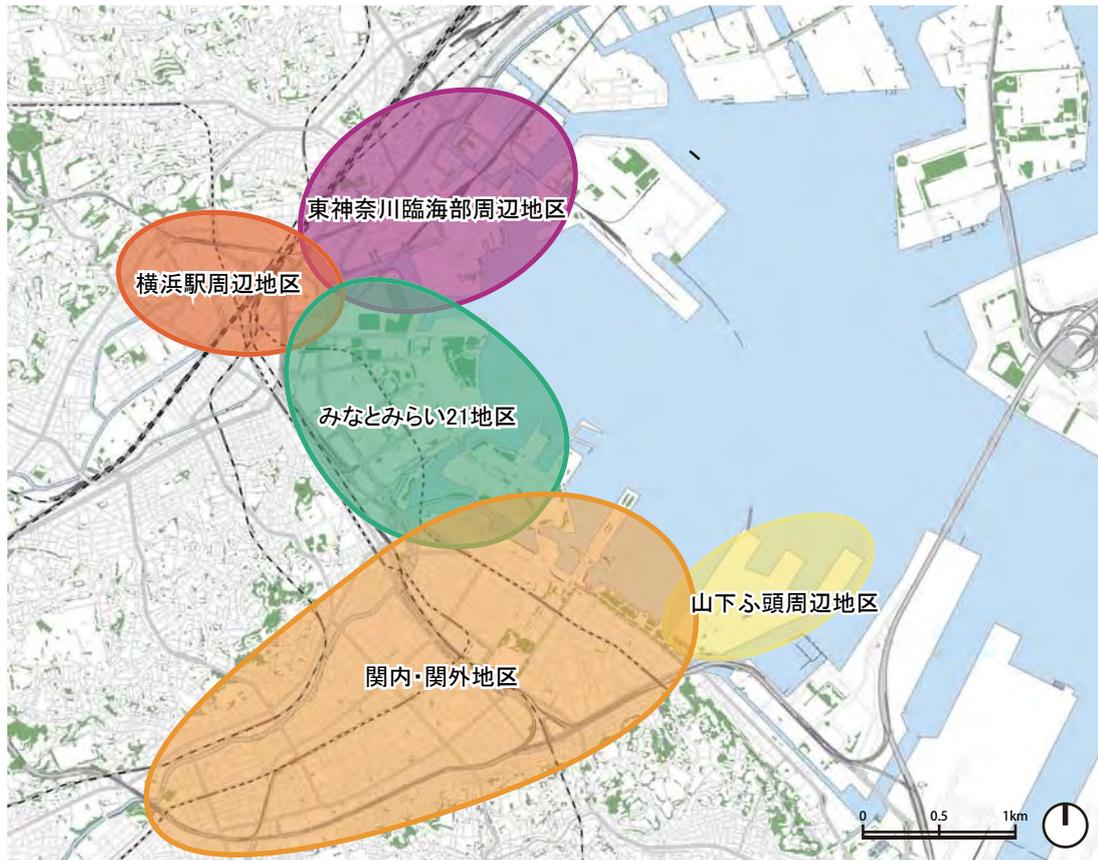
エリアコンセプトブックは、お寄せいただいたご意見を踏まえ、横浜市現市庁舎街区等活用事業審査委員会の審議を経て、平成31年1月に決定・公表します。



第1章

関内駅周辺地区の新たなまちづくり

都心臨海部における関内・関外地区の位置付け



横浜市の都心臨海部は、開港を契機に、海外諸国との交易の中心地となり、世界中から集まる人・モノ・カネ・情報・文化であふれ、近代日本の成長をけん引するエリアとして、目覚ましい発展を遂げてきました。中でも、その中心にあった現在の関内地区では、外国人居留地の誕生など、国際性豊かな市街地が形成されるとともに、外国人技術者による近代的な技術の導入等が進められ、時代の先駆けとなるまちづくりが進められてきました。

その後、高度経済成長を迎える一方で、様々な都市問題が発生する中、現在の横浜市の骨格をつくる「六大事業」の一つである「都心部強化事業」により、港湾機能の質的転換が図られ、当時分断されていた関内・関外地区と横浜駅周辺地区の二つの核がみなとみらい21地区でつながり、一体化した新しい都心臨海部が形成されました。

横浜駅周辺地区やみなとみらい21地区では、国際的な企業が立地する業務拠点をはじめ、広域的な商業拠点、国内有数の大規模コンベンション施設など、横浜経済をけん引する都心機能がコンパクトに集積しています。

一方、関内・関外地区においても、古くからの地場産業や、個性豊かな界限など、都市の活動を支える様々な機能が集積しており、近年では特に、港町ならではの個性的で魅力ある資源を活かした文化芸術活動が展開され、都市の新しい価値や魅力が創出されています。

関内・関外地区の歴史と、人々を惹き付けるまち

関内・関外地区は、17世紀の吉田新田の開墾にはじまり、幕末の外国人居留地誕生とともに、それを支える日本人街が形成され、併せて官公庁施設などの立地が進んだことで、横浜の原点として発展を遂げました。その後、諸外国との交易の急速な発展により、貿易に関連する業務機能及び物販店・飲食業などの集積が進み、業務機能や商業機能を中心とした街が形成されてきた歴史があります。



出典：横浜異人商館之図 貞秀図 文久元年
(横浜開港資料館所蔵)



出典：横浜各国商館真図 三代広重画 明治5年
(横浜開港資料館所蔵)



出典：横浜パノラマ(絵はがき) 20世紀初頭
(横浜開港資料館所蔵)



出典：山下公園(絵はがき) 昭和期
(横浜開港資料館所蔵)

横浜港の開港以来、横浜の中心地として発展を遂げてきた関内地区には、港町ならではの歴史・文化が息づいており、街中には、開港時の面影を色濃く残す歴史的建造物や土木産業遺構などが点在し、横浜の歴史や物語を伝える横浜ならではの風景を構成しています。また、異国情緒あふれる飲食店やバーなどが残り、開港の地ならではの国際的な雰囲気を感じられる街となっています。

これらは、横浜らしさを語り継ぐ貴重な資源として、文化財制度とも連携しながら、まちづくりの中で保存・活用が進められており、現在でも多くの人々に親しまれています。

また、公園や緑地、パブリックスペース等の積極的な整備や、港を意識した街並み景観の形成に取り組んできました。その結果、都心と港・水際線がつながる臨海部の空間・景観は、横浜ブランドを構成する大きな魅力として広く認識されています。また、街中でも、地域の魅力と個性を活かした都市デザインの取組が展開され、美しさ、楽しさが感じられる豊かな都市空間が形成されています。



馬車道



日本大通り



元町



中華街



象の鼻



山下公園

様々な魅力がある関内・関外地区

関内・関外地区には、横浜公園・大通り公園・山下公園などの都市公園や横浜文化体育館・横浜スタジアムといったスポーツ施設、国内外の観光客の玄関口となる客船ターミナル、創造界隈拠点など、港町の歴史と文化に基づいた魅力的な施設が多数あります。さらに、業務機能強化の取組や文化芸術創造都市・横浜を象徴する様々なイベント、スポーツを通じた健康づくりなどの取組を進めています。

これらの街の中にある資源と現市庁舎街区の機能を結びつけることで、新たな視点で魅力が再発見されるなどの相乗的な効果の創出を誘導していきます。



横浜公園・横浜スタジアム

憩い・くつろぐ緑豊かな空間に加え、スポーツの拠点となる横浜スタジアムにより街の賑わいが生まれている。



大通り公園

緑の軸線として関内駅から関外側へ1.2km伸びる公園であり、憩いの場であると同時に地域活性の空間となっている。



横浜マラソン

「する、みる、ささえる」すべての人が楽しめる大会として、スポーツ振興や健康増進に寄与するとともに、経済効果やシティプロモーション効果が期待される。



関内地区における業務機能強化の取組

大企業の本社・研究開発拠点が集積している横浜駅周辺地区やみなとみらい21地区と隣接している関内地区の立地特性を活かし、イノベーション人材が集まる交流の場づくり等の取組を進め、次世代産業を生み出すビジネスエリアとなるために企業の更なる立地を促進します。

また、本社・研究所や観光・MICE施設の立地に関する支援を上限50億円(助成率12%)に拡充し、賃貸ビルの建替え等に対する支援制度も新たに創設しています。

横浜市企業の誘致に関する取組については下記リンク先をご覧ください。
 〈経済局URL〉 <http://www.city.yokohama.lg.jp/keizai/yuchi/>



関内・関外地区活性化推進計画に基づく業務機能強化のモデル事業(mass×mass 関内フューチャーセンター)

文化芸術創造都市・横浜

横浜の「港を囲む独自の歴史や文化」を活用し、芸術や文化の持つ「創造性」を活かして、都市の新しい価値や魅力を生み出す創造都市の取組を進めており、市民・NPO・アーティスト・クリエイター等と協働しながら、創造的な活動を発信する「創造界隈拠点」として、臨海部の歴史的建造物・公共空間・空き店舗等を有効活用しています。



横浜文化体育館

再整備後は、メインアリーナとサブアリーナ合わせて、年間で100万人規模の動員が予想されるなど、関外地区の新たな集客拠点となる。



**横浜大さん橋
国際客船ターミナル**

国内外の客船が多く発着するほか、都心臨海部における主要観光地の一つであるなど、横浜港の象徴的存在の一つである。



ガーデンネックレス横浜

花と緑にあふれる魅力ある「ガーデンシティ横浜」を推進するリーディングプロジェクトとして、全市的に展開。大岡川のサクラ、横浜公園・日本大通りのチューリップ、山下公園のバラなど花や緑による魅力・賑わいを創出。

観光・集客

- 関内駅周辺地区
- 都心回遊軸・緑の軸線
- ◆ 創造界限拠点



YCCヨコハマ
創造都市センター



象の鼻テラス

Photo: DAICI ANO

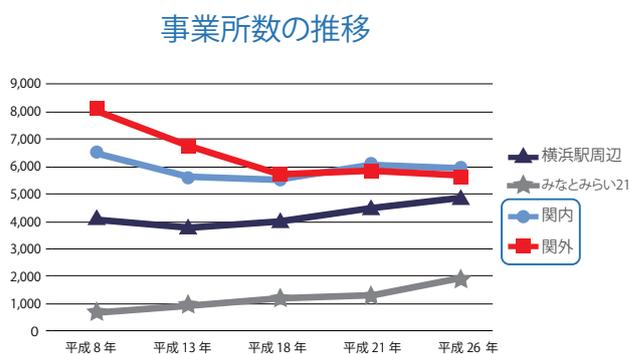
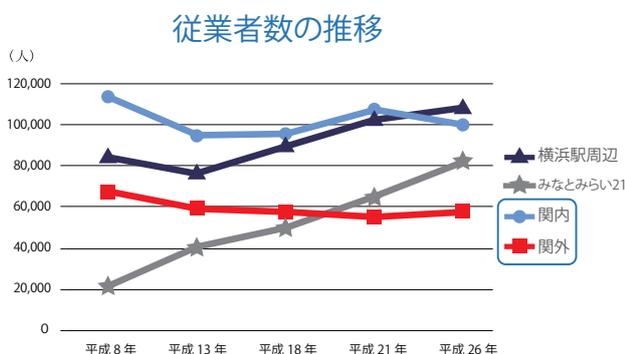
スポーツ・健康

大規模スポーツイベントの誘致・開催や地元プロスポーツチームとの連携を通じ、市民が一流のプレーを観戦する機会や、夢や感動を共有する機会を創出するとともに、集客促進や地域経済活性化を目指します。

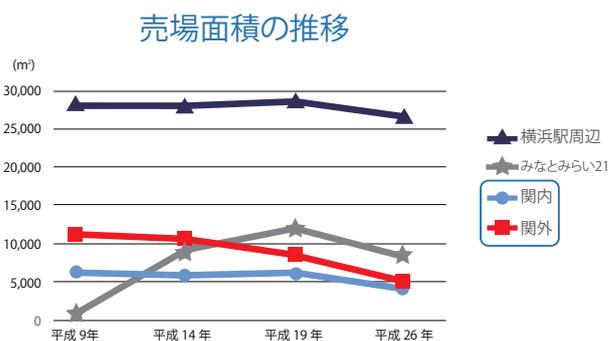
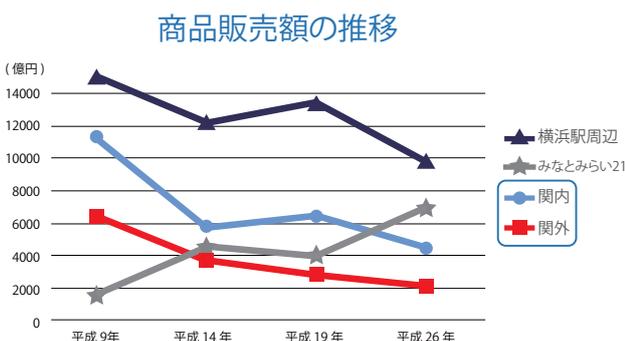
また、誰もが身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりを推進し、スポーツを通じた市民の暮らしの充実や街の活性化を図り、スポーツ都市横浜の実現を目指します。

関内・関外地区の現状

関内・関外地区は、横浜市内で最大の従業者数が働くエリアであり、横浜市全体の経済・雇用をけん引する役割を担っています。



しかし、近年は横浜駅周辺地区やみなとみらい21地区の開発が進み、都市構造や社会・経済情勢が変化したことによって、関内・関外地区の売場面積の低下などが課題となっています。



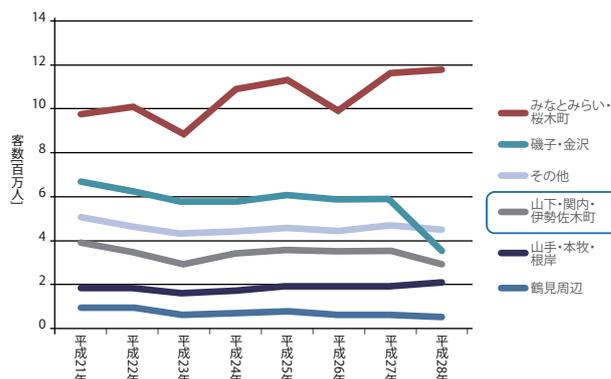
また、横浜市の観光集客実人員、観光消費額は上昇傾向となっており、また、横浜市主要ホテルの客室稼働率は86% (平成28年) の高稼働となっているほか、市内の外国人延べ宿泊者数も年間72万人となり、過去最高となっています。

一方で、横浜市を訪れる観光客は、みなとみらい21地区や、横浜赤レンガ倉庫などの臨海部を回遊しており、観光客の目的地となる施設が少ない関内駅周辺地区を回遊する人の流れができていないのが現状です。

横浜市の観光集客実人員と観光消費額の推移



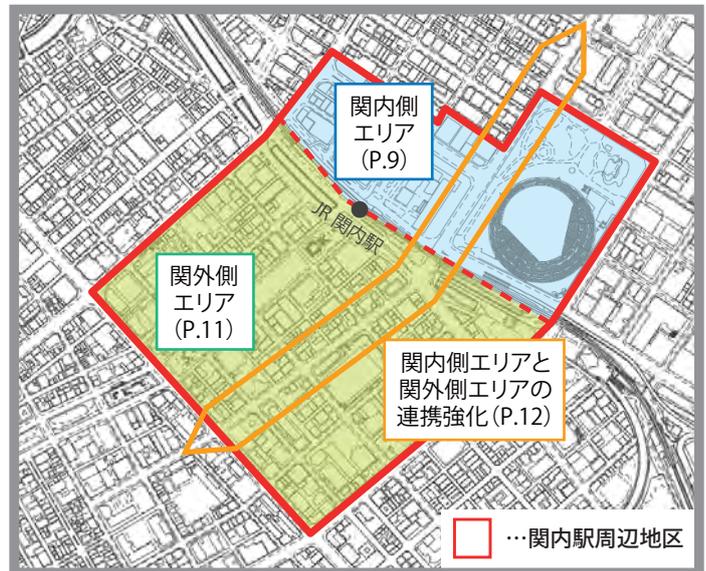
観光入込客数(観光施設)の推移



関内駅周辺地区

関内駅周辺地区は、JR関内駅を中心とした一体のエリアを指します。開港以来、横浜の発展をけん引してきた関内・関外地区の中心であり、長年にわたり市民に親しまれてきた横浜の顔ともいべき地区です。

関内・関外地区の結節点でもあるこの地区で、連鎖的に行われる大規模土地利用転換を通じて、知と創造の活動の場を呼び込みます。地区内に新たな風を吹き込み、人が集まる魅力を高めることで、関内・関外地区の再生及び都心臨海部の活性化につなげていくため、「国際的な産学連携」「観光・集客」をテーマとし、業務・商業・居住・交流などの多様かつ魅力的な機能が近接したまちづくりを推進します。



関内・関外地区のまちづくりに関する施策

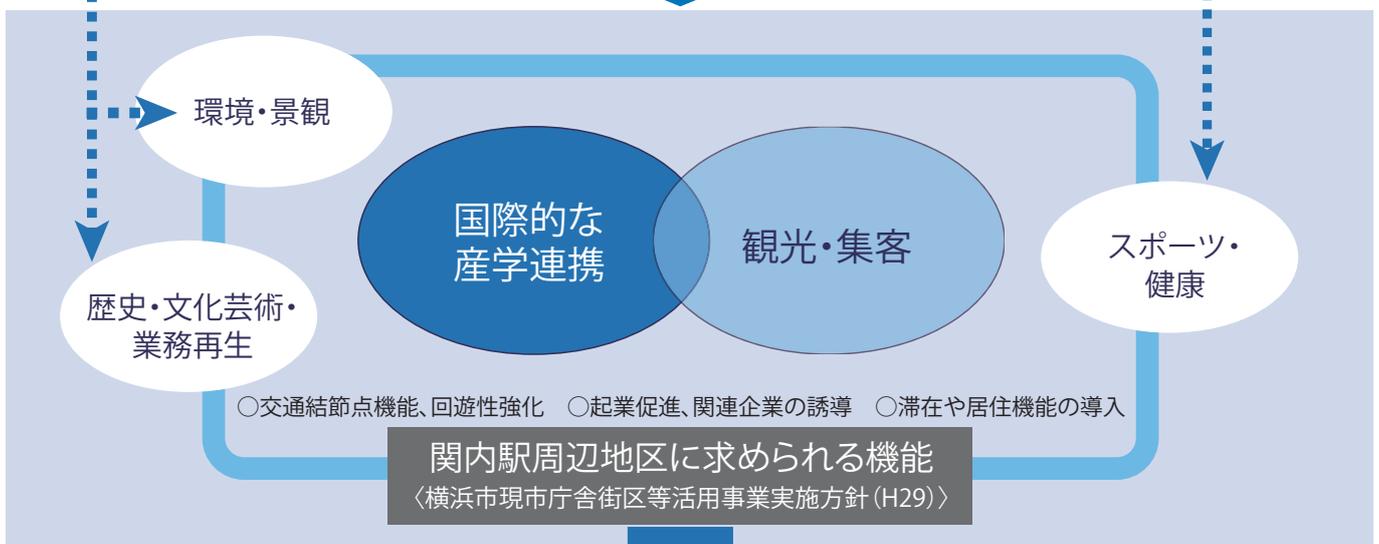
- 文化芸術創造都市施策の基本的な考え方(H24)
- 横浜市都心臨海部再生マスタープラン(H27)
- 山下ふ頭開発基本計画(H27)等

関内・関外活性化推進計画(H22)

まちの新たな動き

- ◇都心臨海部における観光ニーズの上昇
- ◇市庁舎の移転〈新市庁舎整備基本計画(H26)〉

横浜文化体育館再整備・横浜スタジアムの機能強化



関内駅周辺地区を核とした関内・関外地区の活性化

国際的な産学連携

先端技術や文化芸術、スポーツ、健康医療、国際、観光など、横浜市の施策や関内・関外地区のまちづくりと関連する分野、今後成長が期待できる分野について、国内外に発信力のある研究機能や人材を呼び込むことで、関連産業の集積や新たな産業・サービス・人材を創出し、関内・関外地区の業務機能再生をけん引していきます。

観光・集客

観光客の目的地となる新たな魅力を誘導することで、都心臨海部における新たな集客の拠点を作り出すとともに、高まる都心臨海部の観光ニーズを関内駅周辺に引き込み、周辺と結ぶことで、関内・関外地区の回遊性を高め、商業需要の向上につなげていきます。

関内地区を中心とした下図のエリアについては、都市の整備を強力に推進し、魅力ある都市拠点を形成していくため、都市再生特別措置法に基づく「都市再生緊急整備地域」の指定に向けて、国へ申出を行いました。その中でも、関内駅周辺地区については、都市の国際競争力の強化を図るうえで特に有効な地域として、「特定都市再生緊急整備地域」に位置付けています。

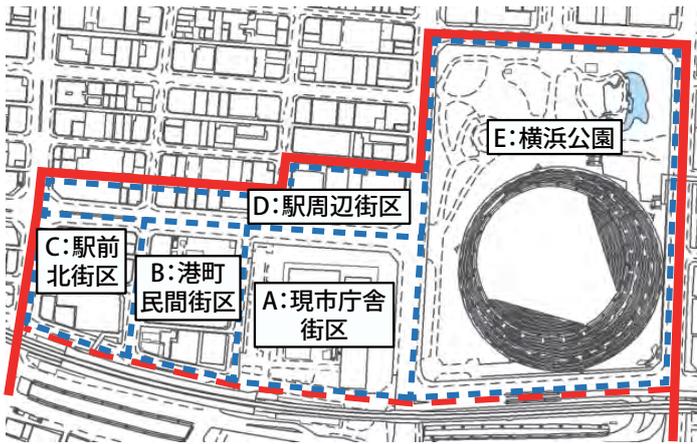


都市再生緊急整備地域及び特定都市再生緊急整備地域内では、都市計画等の特例や金融支援や税制措置を受けるための認定等の特別な措置を受けることができます。

※都市再生関連施策については下記リンク先をご覧ください。

〈国土交通省URL〉 http://www.mlit.go.jp/toshi/crd_machi_tk_000008.html

(1) 関内側エリア



現市庁舎街区や港町民間街区等、連鎖的に大規模な土地利用転換が見込まれる関内側エリアにおいては、現行の基準の見直しも視野に入れ、地区計画等の都市計画手法等を活用した適正な誘導を通じて、関内・関外地区の活性化の核となるような新たなまちづくりを行います。

また、景観誘導や基盤整備を通じて、関内・関外地区の新たなまちを印象付けるシンボルとなる景観を形成し、都市再生へつながる業務・商業・居住・交流などの多様かつ魅力的な機能が近接したまちづくりを推進します。

①機能の誘導 ～「国際的な産学連携」「観光・集客」の強化～

関内側エリアは、来街者・観光客・住民・地元団体などが利用するJR関内駅と市営地下鉄関内駅があり、様々な賑わいと交流が生まれる結節点となることが期待されるエリアです。

そこに、「国際的な産学連携」「観光・集客」の機能やそれと連携した機能を、現市庁舎街区が先駆けとなって連鎖的に誘導することで、活性化の核を形成します。また、その効果を関内・関外地区全体の魅力向上へと波及させていきます。

なお、住宅については、現在、立地が禁止されていますが、市庁舎移転後の新たなまちづくりの一環として、都市活力の維持・向上を図るとともに、業務・商業・居住・交流などの多様かつ魅力的な機能が近接したまちづくりを推進するため、現行基準の見直しも視野に入れ、都心にふさわしい居住機能の導入を検討します。

具体的には、エリア内を区分したうえで、機能の誘導を目指します。

- A 現市庁舎街区:** 関内・関外地区では希少な大規模街区であることを活かし、地区全体や都心臨海部へとインパクト・波及を与える規模の大きな開発によって、「国際的な産学連携」「観光・集客」の中心的機能の積極的な誘導を目指す街区です。そのため、核となる施設は非住居用途としますが、それを補完し相乗効果を発揮して、まちづくりに寄与する居住機能については、一定の制限のもとでの導入を検討します。
- B 港町民間街区・C 駅前北街区:** 低層部の賑わいの連続性を保ちながら、関内駅前という立地を踏まえ、市街地再開発事業等の集約化を通じて結節点機能の強化を図ります。「国際的な産学連携」「観光・集客」機能を誘導することに併せて、「商住共存地区(※)」と同様に、業務・商業機能と居住機能が適切に共存したまちづくりを目指す街区です。
- D 駅周辺街区:** 低層部の賑わいの連続性を保ちながら、「国際的な産学連携」「観光・集客」に寄与する開発の誘導を行うとともに、隣接する「商住共存地区(※)」と同様に、業務・商業機能と居住機能が適切に共存したまちづくりを目指す街区です。
- E 横浜公園:** 明治9年開園の歴史ある公園であり、外国人と日本人双方が利用できたことから「彼我(ひが)公園」と呼ばれていました。緑豊かな公園は市民が憩い・くつろぐ場として貴重なことに加え、横浜スタジアムはプロスポーツや市民スポーツの拠点となっています。歴史と緑を尊重し、周辺環境とも協調しながら、街の賑わい創出につながるよう、公園の魅力を高めます。

※商住共存地区…関内側エリアを除いた関内地区において、都市計画により指定されている地区。住宅の容積率を制限しているが、業務・商業機能等の併設によって緩和が認められる。

②景観の誘導 ～関内地区の玄関口として、魅力と品格のある景観形成～

横浜市では、これまで横浜市景観計画における下記4つの方針に基づいて、関内地区の街並みを更に魅力的なものとし、世界に誇れる横浜の顔づくりを行ってきました。

【関内地区全域の方針】

- I わかりやすく、奥行きと賑わいのある界隈を巡り歩いて楽しめる街を創る。
- II 関内地区の街並みの特徴を生かし、ミナト横浜を感じる眺望が楽しめる街を創る。
- III 開港の歴史や文化の蓄積を活かしながら新しい文化を生み出す街を創る。
- IV 多様な都市機能がコンパクトに複合する、活力ある街を創る。

関内側エリアは関内地区の玄関口であり、景観面でも、市庁舎が移転した後の関内地区の印象を形作る重要なエリアです。

これまで横浜市では、現市庁舎街区の周辺を横浜市景観計画において、「市庁舎前面特定地区」等に位置付け、調和した街並みとゆとりある空間となるよう景観形成に取り組んできましたが、新たなまちづくりを進めるにあたっては、

- 関内地区の玄関口としての風格のある景観と、多くの人で賑わう魅力的な駅前空間の形成
- 大通り公園から横浜公園、さらに海沿いへとつながる緑の軸線沿いの魅力ある歩行者空間の形成
- 「開港の地」としての歴史性

を普遍的な景観形成上の要素として継承し、一部基準の改正などを行いながら、これまで形成してきた景観がより良いものとなるよう誘導していきます。

また、土地利用転換を行う際には、関内・関外地区の新たなシンボルとなるような景観形成を目指し、建築物の低層部には、人々の活動による賑わいのある景観を誘導するとともに、最高高等高層部の景観についても、現行基準の見直しも含めて、地区の象徴となるような魅力と品格のある眺望景観を誘導します。

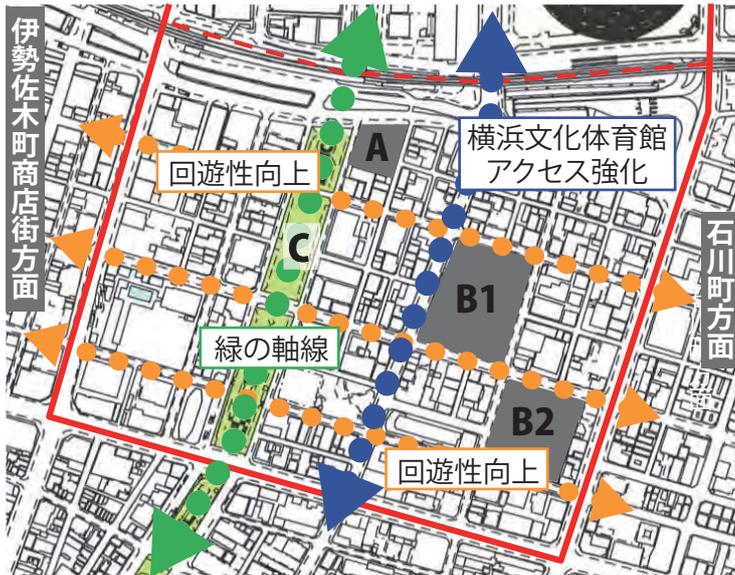
③「観光・集客」に資する交通機能の導入等 ～人が集まり、周辺と結ばれる拠点をつくる～

現市庁舎街区・教育文化センター跡地活用や、横浜文化体育館・横浜スタジアムといった大規模スポーツ施設の再整備等による来街者の増加を見据え、「観光・集客」に資する交通機能の導入(交通広場については、港町民間街区の再開発及び基盤整備と合わせて整備予定)・駅前の広場空間の創出・安全で快適な歩行者空間の整備などを行います。

これらの整備を行うことで、市内外とのアクセス向上や関内・関外地区の接続強化を図るとともに、臨海部との円滑な人の流れを誘導します。



(2) 関外側エリア



関外側エリアにおいては、関内側エリアのまちづくりの動きとともに教育文化センター跡地活用や横浜文化体育館の再整備を契機として、「国際的な産学連携」や「観光・集客」とスポーツ・健康が連携したまちづくりを行います。

教育文化センター跡地活用では、関東学院大学のキャンパスに約2,500人の学生が通うことになり、その学生達が大通り公園を活用することで、日中の賑わいが形成されます。また、学生達のフィールドワークの舞台として関外地区を活用することで、街へ学生が出ていくことになり、伊勢佐木町をはじめとする既存商店街の活性化につながる事が想定されます。

横浜文化体育館の再整備においては、年間を通じてスポーツだけではなく、コンサート等のイベントも開催される予定であり、多くの集客が見込まれます。大通り公園の活用や既存商店街と連携することで来街者を街全体で受けとめ、回遊性を高めます。

緑の軸線(上図緑色矢印)を形成する大通り公園に加え、みなと大通りから横浜文化体育館への歩行者動線(上図青色矢印)についても、臨海部とのアクセスを強化します。関外地区の回遊性、賑わいの形成のためには伊勢佐木町商店街や石川町方面の軸線(上図オレンジ色矢印)も重要であり、教育文化センター跡地活用、横浜文化体育館の再整備にあわせ、伊勢佐木町など既存商店街との連携を強化し、回遊性を高めます。

A: 関東学院大学 新キャンパス

関東学院大学が、約2,600㎡の土地に約2,500人の学生規模をもつキャンパスを設置します。ホール等の一部施設を市民に開放し、カンファレンス・講演会・演奏会などを開催することにより、地域への賑わい創出に貢献します。

マッチングオフィスを併設したコワーキングスペースを設置し、市民が大学のリソースにワンストップで接続することで、様々なイノベーションを誘発します。



関東学院大学
新キャンパス
(完成予想図)

B: 横浜文化体育館の再整備

約5,000席のメインアリーナでは、年間を通じてスポーツだけではなく、コンサート等のイベントも開催される予定です。最大3,000席となるサブアリーナでは、現在の横浜文化体育館の機能に武道館が併設され、スポーツだけではなく武道の拠点として整備されます。また、サブアリーナには総合案内所が設けられ、施設の利用に関する問合せに留まらず、周辺の街の情報発信拠点となります。



サブアリーナ
(完成予想図)

C: 大通り公園

延長1.2キロメートルの緑の軸線をなす緑のオープンスペースであり、市民が憩いくつろぐ公園です。石の広場では地元等のイベントのほか社会実験が実施されています。関東学院大学新キャンパスや横浜文化体育館の再整備など新たなプレーヤーによる活用等により、周辺環境とも協調しながら、街の賑わい創出につながるよう公園の魅力を高めます。



大通り公園

(3) 関内側エリアと関外側エリアの連携強化

① JR関内駅南口改良

横浜市とJR東日本で協力して、関内駅南口改良等の調査を進めています。

② みなと大通りシンボルロード化及び横浜文化体育館アクセス強化

関内側エリア及び関外側エリアともに、「国際的な産学連携」「観光・集客」の実現に向けた大規模施設の立地が続き、来街者の増加による、地区の更なる賑わい創出が期待されます。

こうした大規模施設が面する「みなと大通り」及び「横浜文化体育館へのアクセス動線」は、連続する1つの路線であり、各施設間の回遊性を向上させるとともに、大通り公園や日本大通りをつなぐ緑の軸線などとあわせて、関内側エリアと関外側エリアとの一体性を向上させる重要な動線です。

一方、現状は車道が広く路上駐車が目立つとともに、既設の自転車歩行者道は狭く、また将来の来街者の増大も見据えると、交差点部においては歩行者溜まりも十分とはいえない状況です。

このため、車道幅を狭めて歩行者・自転車通行空間を拡充する等、沿道利用状況を踏まえながら既存道路空間の再整備を行い、安全で快適な歩行者ネットワークの強化・拡充を図っていきます。



みなと大通りの歴史

嘉永6年(1853年)のペリー来航以降、江戸幕府が開港の場所として、横浜村(現関内地区)を定め、都市形成がされてきました。この時、現横浜公園の位置に港崎廊(遊郭)が作られ、港から遊郭を繋ぐ道として、みなと大通りの原型となる遊郭通りができました。

みなと大通りは、開港と同時期から原型が見られ、明治初期には現在とほぼ同形状となった、横浜の発展とともに歩んできた道路です。



出典: 神奈川横浜幕郭之光景 万延元年
(横浜開港資料館所蔵)



第2章

現市庁舎街区活用に期待するもの 【骨子】

※本骨子は、エリアコンセプトブック第2章「現市庁舎街区活用に期待するもの」の項目と記載内容の方向性を示すものです。具体的な記載内容については、横浜市現市庁舎街区等活用事業審査委員会の審議を踏まえて、平成31年1月に募集要項とあわせてお示しします。

◆賑わいの考え方と現市庁舎街区の用途

- 「国際的な産学連携」「観光・集客」をテーマとした用途の提案を求めます。現市庁舎街区は、関内・関外地区に希少な大規模街区(約 1.6ha)であることを活かして、周辺地域や都心臨海部全体にインパクトや波及を与える提案を求めます。
- 「国際的な産学連携」による賑わいの考え方として、関内・関外地区の業務再生に貢献する用途等について、イメージや事例を示して提案を求めます。
- 「観光・集客」による賑わいの考え方として、現市庁舎街区だけではなく、関内・関外地区全体が面的に賑わうための仕掛けづくり等について、イメージや事例を示して提案を求めます。
- 居住機能については、以下のような制限を条件付けたうえで、提案を求めることを検討します。
 - 施設画面上の制限(施設面積の2割以内、最上階は避ける など)
 - 居住機能上の制限(クリエイティブ活動の拠点やサービスアパートメントといったまちづくりに寄与する賃貸形式のものに限定する など)

◆歩行者動線と広場

- 現市庁舎街区と周辺地域がつながり、街の回遊性を高めるため、緑の軸線をはじめとした歩行者ネットワークや広場空間の考え方について、イメージや事例を示して提案を求めます。
- 広場機能については、関内地区の玄関口として新たな街を印象付ける空間(屋内・屋外)のイメージや持続的に賑わいが生み出される魅力的な運営について、イメージや事例を示して提案を求めます。



◆「観光・集客」に資する交通機能の導入

- 「観光・集客」に資する交通機能の導入を図ります。想定する交通機能(交通手段)や「観光・集客」に資する取組について、イメージや事例を示して提案を求めます。

※イメージ例は次ページ

交通機能の導入<イメージ例>

凡例

- 現市庁舎街区
- 様々な交通 (自動車関連)
- 様々な交通 (小型モビリティ関連)
- 観光バス等
- 観光案内等
- 新たな交通システム

◆横浜市の取組

Function D
(新たな交通システム)
都心臨海部を回遊するバス交通など、新たな交通システムの受入れ

出典:公益社団法人日本交通計画協会

◆事業者による取組

Function A
(様々な交通)
時代ごとに変化する交通ニーズに対応し、利用者が様々な交通手段を選択できる拠点

Function B
(観光バス等)
空港、他都市、観光地等にアクセスする広域交通の拠点

出典:一般社団法人日本ロンドンバス協会

Function C
(観光案内・情報発信機能と待合サービス)
交通機能と連携して外国人も含めた来街者向けの観光案内・情報発信機能と充実した待合サービスを提供する拠点

※配置や機能は一例であり、事業者による柔軟な提案を求めます。

◆横浜らしい街並み景観

- 現市庁舎街区には、街の活力と賑わいを生み出す機能を誘導するとともに、景観においても、遠景や近景からの見え方を十分考慮し、関内地区の玄関口にふさわしいデザインの提案を求めます。
- 周辺の横浜公園や大通り公園等の緑豊かな空間を継承しつつ、生物多様性にも配慮した風格ある空間の保全・創出の提案を求めます。
- 低層部には、新たなまちづくりの象徴となる駅前空間の賑わいを誘導するとともに、高層部は、関内・関外地区の都市再生を印象付けるシンボルとしての品格のある眺望景観の実現に向けて、現行の最高高さの目安にとらわれないものも含めて様々な提案を求め、最も「横浜らしい街並み景観」にふさわしいものを選定します。
- 魅力ある施設・空間を備えた形態意匠について、イメージや事例を示して提案を求めます。
- 現市庁舎建物の概要等を示すとともに、活用する場合における、様々な事例を提示します。

※現市庁舎建物の概要はP16・P17

◆関内駅周辺地区のマネジメント

- 関内駅周辺地区における他の事業者とも連携した地区の持続的な活性化に対する関わりについて、イメージや事例を示して提案を求めます。

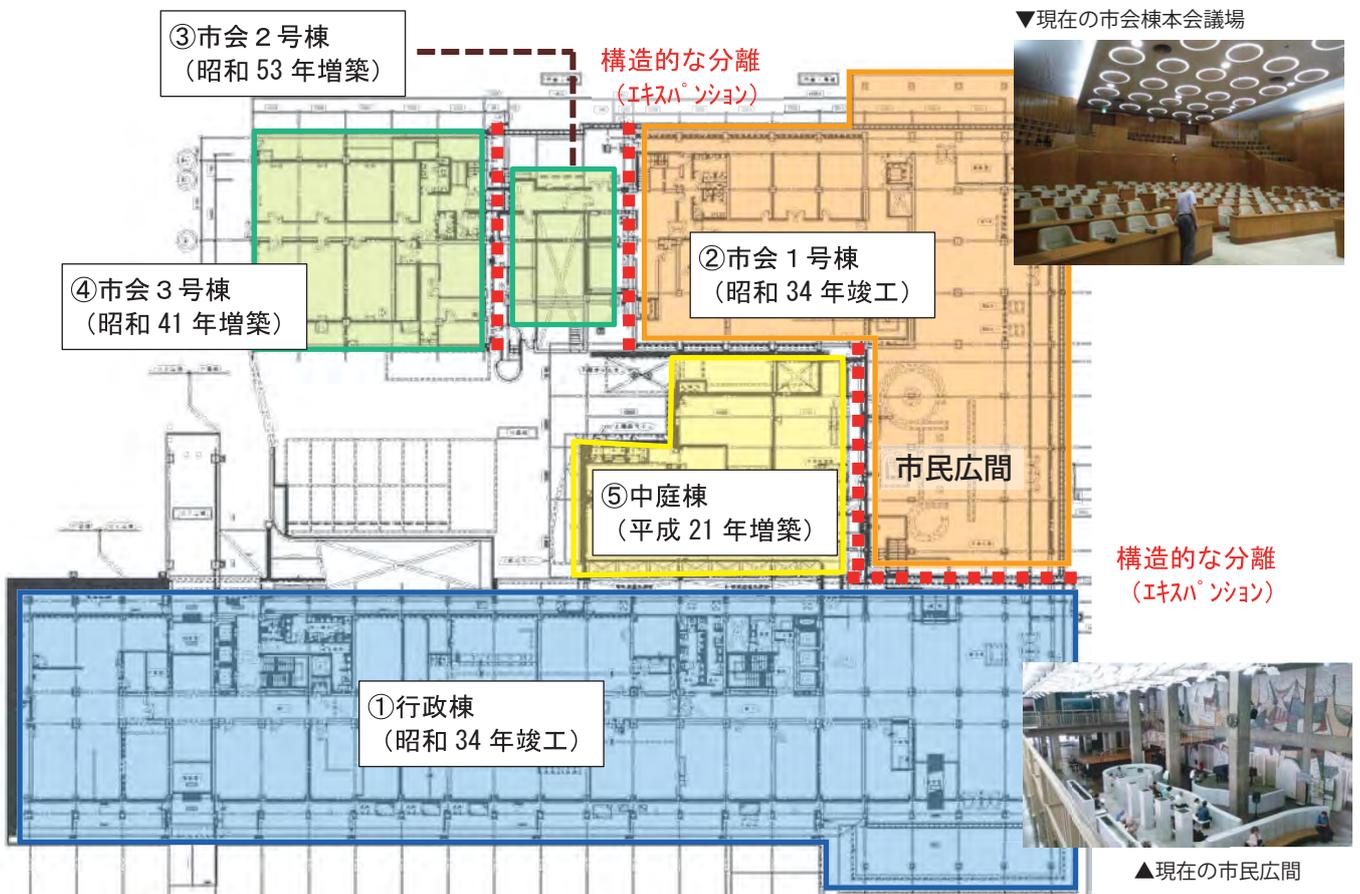
※関内駅周辺地区における主な他事業の概要はP18

※現市庁舎建物の概要

◆現市庁舎建物の概要

	構造	階高	延床面積	建築面積	竣工年
①行政棟	SRC造	地上8階・地下1階	20,756.45㎡	2,740.21㎡	S34年
②市会1号棟	SRC造	地上4階・地下1階	5,821.59㎡	1,598.61㎡	S34年
③市会2号棟	RC造	地上3階	606.40㎡	278.29㎡	S53年
④市会3号棟	RC造	地上2階	1,027.54㎡	562.24㎡	S41年
⑤中庭棟	S造	地上1階・地下1階	1,820.30㎡	664.34㎡	H21年
備考	①②は当初建築（設計 村野藤吾）、③④⑤は増築				

▼現在の俯瞰



◆現市庁舎建物の耐震補強

現市庁舎建物は、耐震診断により補強が必要との結果を受け、平成14年度に市会1号棟・市会2号棟・市会3号棟の耐震補強工事、平成21年度に行政棟の耐震補強工事が完了しています。行政棟の耐震補強工事に際しては、既存建物に免震装置を組み込む、免震レトロフィットが採用されています。

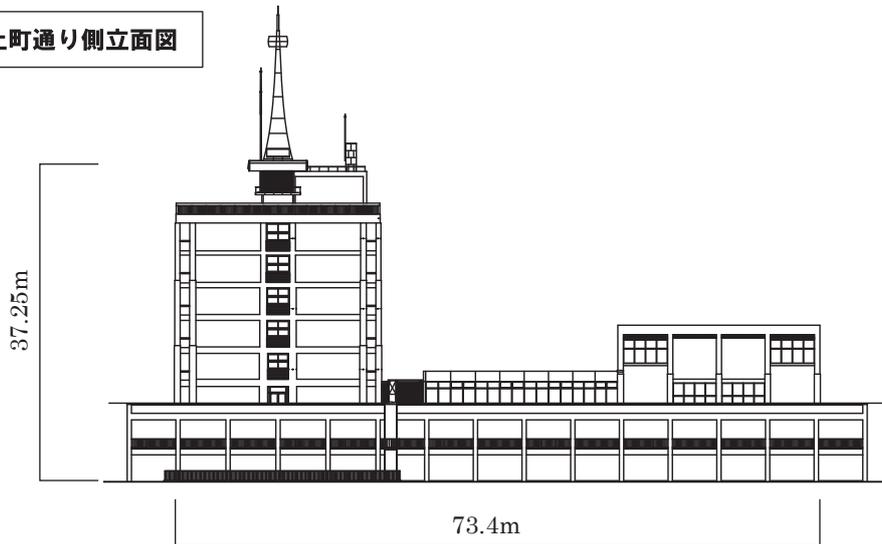
◆竣工当時の設計意匠など

- 現市庁舎建物は開港百周年事業の一環として昭和34年に竣工しました。
- 指名設計競技により、村野藤吾氏の設計案が採用されました。
- 「庁舎と市会は市民広間をもって連結され、市民に開放され、市民と市当局との公的接触の場となる」との設計意図により、尾上町通り側の1階に市民広間が配置されています。
- 市民広間は彫刻家の辻晋堂氏による陶器製のレリーフで覆われ、市会棟本会議場の天井には彫刻家の須田晃山氏の石膏レリーフが貼られています。

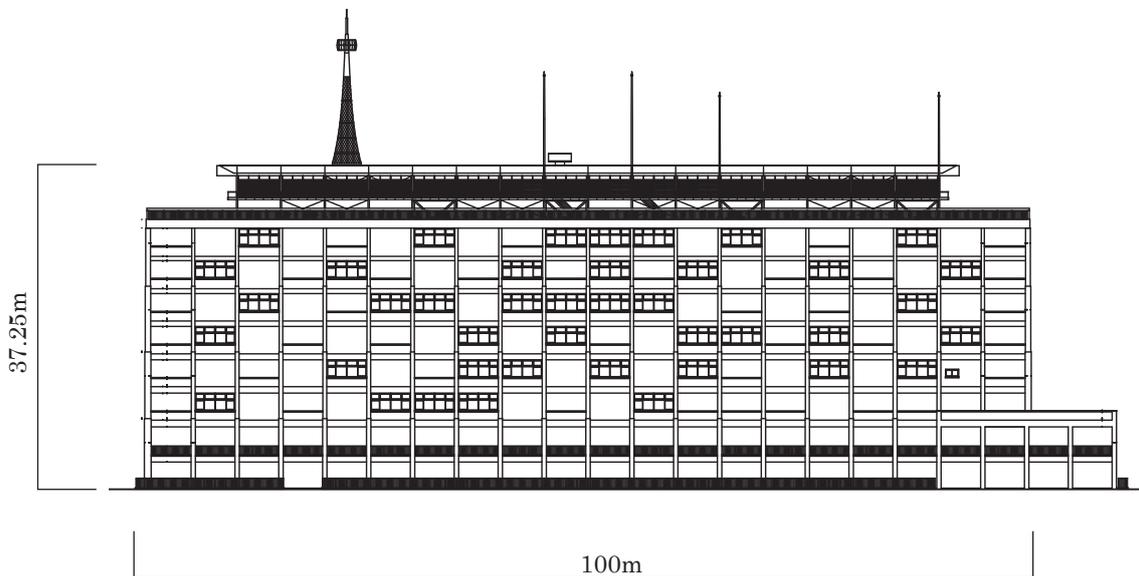


▲昭和34年竣工時

尾上町通り側立面図



横浜公園側立面図



※関内駅周辺地区における主な他事業の概要

◆横浜文化体育館再整備事業：株式会社YOKOHAMA文体

建物概要	延床面積 階数	併設する 民間収益施設
メインアリーナ 施設	約15,000㎡ 地上3階	ホテル、飲食店、 店舗、駐車場
サブアリーナ 施設(横浜武道館)	約14,000㎡ 地上4階	病院



スケジュール(予定)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ● 平成29年12月～平成32年10月 | サブアリーナ施設の設計・建設・開館準備 |
| ● 平成32年10月 | サブアリーナ施設の供用開始 |
| ● 平成29年12月～平成36年3月 | メインアリーナ施設の設計・建設・開館準備 |
| ● 平成36年4月 | メインアリーナ施設の供用開始 |

●関内駅周辺地区のマネジメントに関する取組

- 関内・関外地区をつなぐ、まちづくりの新たな核として、総合型地域スポーツクラブを中心とした「エリアスポーツマネジメント」により、地域コミュニティの強化、スポーツ・文化の更なる振興に貢献する。

【記者発表資料URL】<http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/sports/buntai/kishahappyo170914.pdf>

◆教育文化センター跡地活用事業：学校法人 関東学院

延床面積 約25,000㎡

フロア構成

- | | |
|---------|--------------------|
| 1階・地下1階 | ブックカフェ・スポーツ施設等 |
| 2・3階 | ホール・ギャラリー |
| 4・5階 | マッチングオフィス・デジタル図書室等 |
| 6～17階 | ラーニングcommons、講義室等 |



スケジュール(予定)

- | | |
|-----------|-------------------|
| ● 平成30年7月 | 既存建物の解体・撤去開始、設計開始 |
| ● 平成31年後半 | 新築工事着手 |
| ● 平成34年4月 | 開校 |

●関内駅周辺地区のマネジメントに関する取組

- 市庁舎移転後を見据え、現市庁舎街区・港町民間街区との連携による、一体的なまちづくりを推進する。
- キャンパスの低層部の一部を開放することにより、市民の知的活動を支援する。
- 大型スポーツ施設の中に位置するキャンパスに、スポーツ・健康に通じる施設を整備することで、大通り公園を含めた周辺地域との面的な連携を誘導する。

【記者発表資料URL】<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/tosai/kannaiekisyuhen/kannaiekisyuhen/kyoubun/press180315.pdf>

発行・編集

平成 30 年 10 月 ・ 横浜市都市整備局都心再生課

住 所

横浜市中区港町 1 丁目 1 番地

電話 / F A X

045 (671) 3963 / 045 (664) 3551

ホームページ

<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/tosai/kannaiekisyuhen/>